



（写真）Infobae “在ベネズエラ・アルゼンチン大使公邸から国外に移動したとされる野党関係者5人”

野党関係者の国外脱出考察

株式会社ベネインベストメント
松浦 健太郎

在 ベネズエラ・アルゼンチン大使公邸で保護されていた野党関係者および野党のリーダーであるマリア・コリナ・マチャド氏（以下、MCM 氏）の母親（コリナ・パリスカ氏）が国外に脱出した。

マドゥロ政権側は「交渉による合意を経て国外脱出を許可した」と主張。一方、野党および米国政府らはマドゥロ政権との交渉の事実を否定。「救出オペレーションにより脱出させた」との認識を示している。

本稿では、野党関係者らが大使公邸に亡命した経緯を確認し、双方の主張について考察したい。

治安悪化計画の訴え受け、大使公邸に亡命

最初にベネズエラを脱出した野党関係者が在ベネズエラ・アルゼンチン大使公邸に保護されることになった背景と現在までの流れについて紹介したい。

2024年3月 マドゥロ政権は、MCM 氏のバリナス州の選挙対策長を務めていた Brandt Ulloa 氏を拘束。Ulloa 氏の証言映像を公開した。

Ulloa 氏は、MCM 氏の選挙対策グループが抗議行動を拡大させるために仕掛けを作っていると証言。また、暴動を起こすために資金を使用していると証言した。

これを受けて、検察庁は、MCM 氏の選挙対策グループである Oswaldo Bracho 氏、Pedro Urruchurtu 氏、Omar González 氏、Humberto Villalobos 氏、Claudia Macero 氏、Fernando Martínez Mottola 氏、Magalli Meda 氏らを指名手配にかけると発表。

Oswaldo Bracho 氏を除く、Pedro Urruchurtu 氏、Omar González 氏、Humberto Villalobos 氏、Claudia Macero 氏、Fernando Martínez Mottola 氏、Magalli Meda 氏が在ベネズエラ・アルゼンチン大使公邸に亡命した（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1042](#)」）。なお、Bracho 氏の消息は不明。

アルゼンチン政府（ミレイ政権）とマドゥロ政権との関係は元々最悪だったが、本件が決定打となり、外交関係は断絶。

双方が大使館員を撤退させることになり、24年8月1日に在ベネズエラ・アルゼンチン大使公邸を含むアルゼンチンの外交施設の管理および大使公邸で亡命している野党政治家の保護はブラジル政府が引き受けることになった。

なお、Fernando Martínez Mottola 氏は24年12月20日に自発的に大使公邸を出たが、持病により25年2月に亡くなっている（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1158](#)」[No.1184](#)」）。

つまり、公式には Pedro Urruchurtu 氏、Omar González 氏、Humberto Villalobos 氏、Claudia Macero 氏、Magalli Meda 氏の5人が大使公邸で保護されていたことになる。

大使公邸の周囲には複数のベネズエラ治安当局が張り込んでおり、厳重な警戒態勢が敷かれていた。

食い違う与野党の主張

この状況が変わったのは5月6日。

突如、前述の野党関係者5名が大使公邸を出て米国に移動したと報じられた。また、この報道から数時間後にマドゥロ政権の厳重な監視下にあった MCM 氏の母親も国外に移動したと報じられた。

そして、冒頭の説明の通り、マドゥロ政権側は「交渉による合意を経て国外脱出を許可した」と主張。

一方、野党と米国政府は「マドゥロ政権の包囲網を掻い潜り、救出オペレーションを実施し脱出させた」と主張。双方の見解が食い違っている。

結論から言うと、どちらの主張も違和感を覚える部分があり、現時点でどちらの主張が正しいかを断定することは出来ない。以下では野党側、マドゥロ政権側の主張の違和感について確認してみたい。

野党側の主張の違和感

前述の通り、野党側は

「マドゥロ政権との交渉を否定」

「マドゥロ政権の包囲網を掻い潜り、救出オペレーションを実施し、脱出させた」
との認識を示している。

この認識についての違和感を指摘したい。

1. 米国への到着が早すぎる

報道を見る限り、野党関係者が大使公邸を出たのは5月5日あるいは5月6日である。

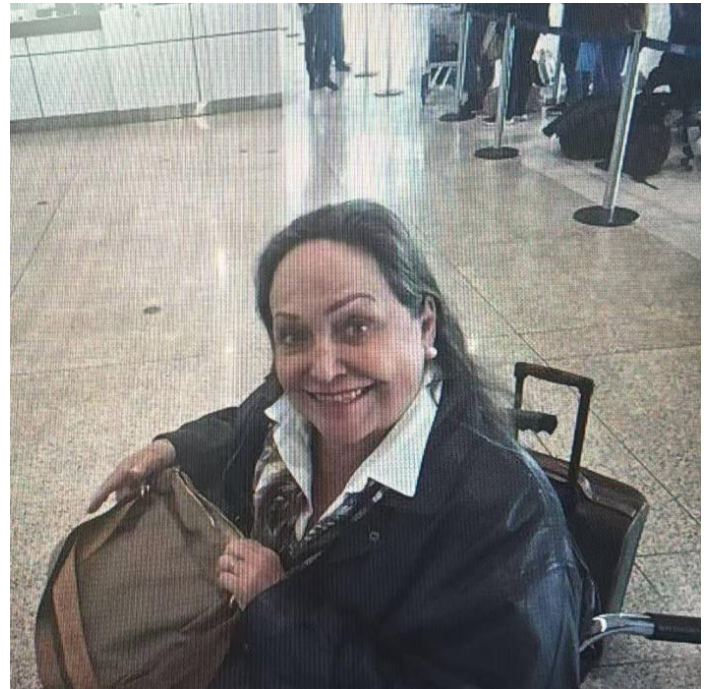
つまり、1日で大使公邸を出て、ベネズエラ国外に移動したことになる。

過去、ベネズエラでは自宅軟禁されていた人物がマドゥロ政権の包囲網を掻い潜り、国外に脱出した事例はいくつか存在する。

これらのケースでは、安全確保のため国外脱出には数日を要した。また、陸路でコロンビアを越境し、国外に逃亡するのが基本ルートだった。1日で移動したのであれば飛行機か船での移動だろう。

非公式情報によると、どうやら飛行機で国外脱出をしているようだ。

マドゥロ政権の監視を逃れて飛行機で脱出することが可能なのかという点が最初の違和感である。



（写真）Con El Mazo Dando

2. MCM 氏の母親の移動に違和感

MCM 氏の母親については、カベジョ内務司法相が「彼女の移動は我々が手配した」と述べており、コロンビアへ移動する時とされる空港での写真を公開している（下写真）。

この写真が何らかの捏造（あるいは過去の写真）である可能性は否定できないが、捏造との指摘は確認できず、野党側はこの写真について完全にスルーしている。

3. 脱出手段について詳細を明らかにしない

野党および米国政府は「救出作戦」と説明しているが、具体的にどのように救出を実現したのかについて説明していない。

また、マドゥロ政権の支援を受けることなく、独自の作戦で国外に移動したという証拠になりそうな情報も現時点では公表していない。

「マドゥロ政権の包囲網を掻い潜り、救出オペレーションを実施し、脱出させた」ということを裏付けるような証拠が出ておらず、違和感を覚える。

本当に救出オペレーションを実施し、脱出させたのであれば、何らかの証拠を残しておくのが普通ではないだろうか。

4. 解放された5人およびMCM 母親の不在

5月12日時点で、大使公邸を出た野党関係者の中でインタビューに対応したのは Omar González 氏のみ。

また、その Omar González 氏も救出作戦の詳細や、救出作戦が存在したことを裏付けるような証拠を提示していない。

国外に移動してから6日は経過しているが、当事者のメディアの露出が少ないことに違和感を覚える。

5. 脱走した時は脱走したと言っていた

「1. 米国への到着が早すぎる」でも触れたが、過去、ベネズエラでは自宅軟禁されていた人物がマドゥロ政権の包囲網を掻い潜り、国外に脱出した事例はいくつか存在する。

これはマドゥロ政権側の話ではあるが、筆者の知る限り、マドゥロ政権は脱走した人物は「脱走した」と述べてきた。

例えば、19年5月にイバン・シモノビス氏が自宅軟禁から脱走した際にも脱走したことを認めている（[「ベネズエラ・トゥデイ No.292」](#)）。

もちろんマドゥロ政権が「交渉で解放した」と嘘をつく動機は十分にあるが、過去の対応と整合性は無い。

マドゥロ政権側の主張の違和感

マドゥロ政権側の主張にも違和感がある。

マドゥロ政権側は「野党との交渉は存在した」「移動手段は我々が手配したが、付き添ってはいない」との認識を示している。

本件に関するマドゥロ政権側の違和感は以下の通り。

1. Magalli 氏、Villalobos 氏の家宅搜索

野党関係者を国外に移動させた後に、マドゥロ政権はカラカスにある Magalli 氏の自宅および Magalli 氏の母親宅および Villalobos 氏の自宅を搜索している（母親宅では自動車を押収）。

合意の上での移動だったとして、彼らの家を搜索する意図がはっきりしない。

また、彼らの家を搜索するのは、もっと前に可能だったはずだが、今になって搜索をする理由についても不明である。

搜索の目的は、「今回の脱出手段を知るため」つまり、「マドゥロ政権は国外脱出を事前に知らなかった」という説の信憑性が増す印象はぬぐえない。

2. Marcero 氏の知人逮捕の理由が不明

5月9日 カベジョ内務司法相は、今回の件に関連して Claudia Macero 氏の知人を逮捕したと発表した（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1215](#)」）。

カベジョ内務司法相の説明によると、大使公邸から国外に移動したのは5人ではなく4人で、実は Macero 氏は24年8月20日に大使公邸を出ていたという（「[ベネズエラ・トゥデイ No.1214](#)」）。

カベジョ内務司法相は、Macero 氏の知人を逮捕した背景についてははっきりと説明しなかったが、彼の発言を聞く限り、マドゥロ政権は大使公邸で保護されていた4人の国外移動は認めたが、Macero 氏の移動は認めていなかったと思われる。

そのため、「（大使公邸にいた4人と連携して国外に逃亡する計画を背後で支援していた）Macero 氏の知人を逮捕した」という前提で語っている。

この認識であれば、辻褄は合うが、カベジョ内務司法相からはっきりした説明がないので、この理解が正しいのかは分からない。

もしこの理解が正しくなければ、Macero 氏の知人を逮捕した理由が分からない。また、逮捕した人物の名前も発表していない。

はっきりと説明しないのは、知られると都合の悪いことがあるからだろう。

3. カベジョ内務司法相しか発言していない

今回の件に関して、マドゥロ政権側の情報発信者はディオスダード・カベジョ内務司法相のみである。

マドゥロ大統領もホルヘ・ロドリゲス国会議長もデルシー・ロドリゲス副大統領もその他閣僚も、本件については一切の見解を示していない。

カベジョ内務司法相の主張をサポートすることもない。

複数の人物が情報を発信すると齟齬や矛盾が生じ、信憑性が低くなるため、マドゥロ政権として、情報源を統一していると言われればそれまでだが、他の与党関係者の本件に関するスルーぶりには違和感を覚える。

4. 誰が交渉したのか不明

「2. カベジョ内務司法相しか発言していない」の話と関係しているが、交渉を行ったのであれば、マドゥロ政権の誰かが交渉に関与したのは間違いない。

通常、マドゥロ政権では交渉時に最前線に立つのはホルヘ・ロドリゲス国会議長である。

しかし、前述の通り、ロドリゲス国会議長は今回の件について一切コメントしていない。

カベジョ内務司法相（あるいは、その関係者）が交渉したのかもしれないが、マドゥロ政権側の交渉当事者が誰なのかが全く見えない。

5. 交渉による国外移動だったとの証明が弱い

「合意による国外移動だった」との主張を裏付けるような証拠は、MCM 氏の母親の写真のみ。

写真は捏造の可能性もあるし、数年前の写真かもしれない。率直に言って、この写真は交渉が存在したことを裏付ける証拠としては弱い。

野党が「マドゥロ政権の包囲網を掻い潜り、救出オペレーションを実施し、脱出させた」という確固たる証拠を提示できていないのと同様に、マドゥロ政権側も「交渉が存在した」と断言できるような証拠を提示できていない。

事実不明のまま、うやむやに終わる可能性大

このように双方ともに違和感があり現時点で「どちらの主張が正しい」と断言できるような状況にはない。

両者ともに肝心のピースが欠けた状態で主張し合っている状況で、今のままではどちらが正しいのか決着がつかないまま時間の経過とともに関心が逸れることだろう。

ベネズエラではうやむやなまま終わることがたくさんある。

恐らく今回もどちらが正しいかよく分からないまま双方の支持者が信じたい主張を信じるだけになることだろう。

以上